

# 「オペ室の悪魔」

— 2 稿 —

2026/03/21

山極 瞭一朗

〈人物表〉

若井 わかい 中也 ちゅうや

(31)

医師

村田 むらた 啓一 けいち

(47)

若井の先輩医師

藁科 わらしな 権太 ごんた

(67)

病院長

女1・2

男1・2

少年・少女

看護師

1. 4番手術室（夜）

誰もいない薄暗い室内。

医療用機材が雑に設置されている。

どこからともなく声が聞こえてきて……

女1の声 「オペ室の悪魔って知ってる？」

男1の声 「ずっと使われてないオペ室があつて」

手術台に無数の紙が貼りつけられている。

女2の声 「殺したい医者の名前を書くと、悪魔がそいつを殺してくれる」

少年の声 「お医者さんだけ？」

紙には、『〇〇先生殺して』『××死ぬ』などの文言。

ひゅーと風が吹き、揺れる。

男2の声 「恨みを買っている医者は多い」

男1の声 「医療ミス、医療過誤」

少女の声 「人を殺してるんだね」

少年の声 「本当に死ぬの？」

紙の中には、朱でバツ印がついているものもある。

女1の声 「悪魔に呪われたら最後。逃れることはできない」

少女の声 「理不尽だ」

女2の声 「世の中は理不尽だらけだよ」

ちかちかと照明が明滅する。

2. 病院・外観（朝）

森の中を切り開いた土地にある大病院。

3. 病院・備品倉庫（朝）

奥の方、若井中也（31）、先輩の村田啓一（47）に相対している。

2人しかいないが、若井は人目を気にしており、

若井 「ほんとにこのまま黙っているつもりですか」

村田 「俺らに落ち度はない」

若井 「ですが——」

村田 「アメリカ行きがなくなってもいいのか」

若井 「……」

村田 「大丈夫だ」

と、微笑み、若井の肩をポンと叩く。そのまま立ち去ろうとするが、

若井 「オペ室の悪魔」

村田、ピタッと立ち止まる。

若井 「4番手術室、入ったことありますか？」

村田 「誰も入れない」

若井 「呪われた人は、必ず……」

村田、ピクッと頬を歪めて、

村田 「噂だろ」

若井 「でも実際に——」

村田、若井を遮って、

村田 「とにかく、俺たちは何も悪いことはしていない」と、そそくさと出ていく。

取り残された若井、じっと村田の背を見つめている。ひゅーと一陣の風が吹き抜ける。

#### 4.

##### 1番手術室（昼）

手術中。

村田、執刀している。

若井は第一助手として村田のサポートに徹している。

村田、手を動かしながら、

村田 「アメリカは楽しみか」

若井、どこか不安げな様子で、

若井 「ええ、まあ……」

村田 「つたく、淋しくなるな」

若井 「先生にはお世話になりました」

村田 「若井、何度も言わせるな。俺は何もしていない」

若井 「そんなことはありません。俺なんて……」

村田、ニヤリと若井を一瞥して、

村田 「自信のなきはいつになったら治る？」

若井 「すみません」

村田 「ま、謙虚なのはいいことだ」

若井、村田を一瞥して、苦笑。  
2階の見学室では、藁科権太（67）が席に座り、  
動静を見守っている。

若井 「あの、先生」

村田 「帰ってきたら、土産話聞かせてくれよ」

若井、何も答えず、ごくりと息を呑む。

すると、どこからともなく一陣の風が吹き抜ける。

若井、ハツとして振り向く。

が、何も無い。

若井、向き直る。

村田が唐突にメスを握る手を止める。

藁科、異変に気付き、眉をひそめる。

若井 「先生？」

村田、心ここにあらずといった様子で、若井の先を  
凝視しており、その手は震えている。

若井 「先生、どうしました？」

若井、訝しそうに再び振り返る。

が、やはりそこには何も無い。

と、村田の手からメスが落ちる。

咄嗟に村田を見る若井。

藁科、徐に立ち上がる。

村田 「ま、待て……待ってくれ」

若井 「先生……？」

村田、首を左右に振ると、ひどく慌てて出ていく。

若井 「先生」

直後、心電図モニターからアラート発生。

若井、咄嗟にモニターを見る。

看護師 「若井先生」

若井、村田を気にしながら、執刀側に回り、

若井 「私が変わります」

床に落ちたメス。

## 5.

### 病院・屋上（夕）

雨が降っている。

びしょ濡れの村田、怯えながら後ずさる。

村田 「やめろ、やめてくれ……」

村田、柵に衝突。さっと下を覗く。

逃げ場はない。

村田 「頼む、お願いだ……」

柵をぎゅっと握る。

村田 「お、俺が何したってい——」

と、足がひよいと浮き、一回転。そのまま落下する。

#### 6. 4番手術室（夕）

手術台に、『村田啓一を殺せ』の紙。朱でバツ印がつけられている。

#### 7. 病院・外観（夜）

雨が降りしきる。

#### 8. 病院・備品倉庫（夜）

若井、隅の方でひとり、じっとカルテを凝視している。

カルテには、年増の女性の写真が貼り付けられている。

若井 「……」

若井、ごくりと息を呑むと、顔をあげる。

その額からじりっと一筋の汗が伝う。

#### 9. 病院・廊下（夜）

暗がりの廊下。

接触が悪いのか、電灯がちかちかと明滅している。

若井、懐中電灯片手に歩いている。

4番手術室の前に到着。

扉には、規制線のテープやお札が乱雑に貼り付けられている。落書きもあり、そこだけ異様な空間。

若井、部屋の前に立つ。  
が、自動扉は開かない。

若井、手動で開けようとするが、ビクともしない。  
その瞬間、一陣の風が吹き抜ける。  
若井、ビクッとして振り返る。  
何も無い。  
と、自動扉が開く。  
若井、思わず懐中電灯を落とす。

10. 4番手術室（夜）

照明が明滅している。

若井、恐る恐る入る。そして手術台の前に立つ。

『村田啓一を殺せ』の紙。朱でバツ印。

若井、ごくりと息を呑んで、

若井 「これ……」

と、紙を手取る。

その拍子に別の紙が床に落ちる。

若井、拾って見ると、目を大きく見開いて、

若井 「嘘だろ……」

『若井中也死ね』の文言。

（おわり）